

東北地方 1か月予報

(11月15日から12月14日までの天候見通し)

平成15年11月14日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は共に平年並でしょう。

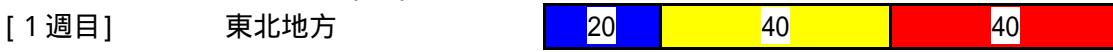
週別の気温は、1週目は平年並か高い、2週目は平年並、3~4週目は平年並の見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 11月15日(土) ~ 12月14日(日)

1週目 : 11月15日(土) ~ 11月21日(金)

2週目 : 11月22日(土) ~ 11月28日(金)

3~4週目 : 11月29日(土) ~ 12月12日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は11月21日

3か月予報 : 11月25日(火) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	5.8	71.8	133.0	7.8	6.5	4.9
新庄	3.8	205.7	44.3	5.8	4.5	2.8
若松	4.4	79.6	75.3	6.5	5.0	3.3
深浦	4.9	149.8	46.2	6.9	5.6	3.8
青森	3.8	141.2	66.2	5.9	4.6	2.8
むつ	3.7	111.4	82.5	5.7	4.5	2.6
八戸	4.1	50.8	126.1	6.1	4.8	3.1
秋田	5.2	187.4	59.0	7.1	5.8	4.1
盛岡	3.2	83.6	102.8	5.1	3.9	2.2
宮古	5.4	64.8	143.9	7.3	6.1	4.4
酒田	6.6	232.7	54.9	8.5	7.3	5.7
山形	4.7	79.4	86.3	6.7	5.3	3.8
仙台	6.7	43.1	136.7	8.7	7.3	5.7
石巻	5.8	42.6	145.5	7.8	6.5	4.8
福島	6.5	46.6	125.3	8.5	7.1	5.5
白河	5.1	47.2	150.1	7.1	5.7	4.1
小名浜	8.4	65.8	168.8	10.3	9.0	7.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.7	81~104	97~105
東北日本海側	-0.6~+0.6	89~107	94~106
東北太平洋側	-0.6~+0.7	65~103	95~105

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6	-0.5~+0.7
東北日本海側	-0.6~+0.7	-0.7~+0.6	-0.5~+0.7
東北太平洋側	-0.6~+0.7	-0.6~+0.6	-0.5~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を受けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成15年11月14日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(11月15日～12月14日)：

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(11月15日～11月21日)：

明日(15日)夜から17日にかけてと期間の終わりは気圧の谷や寒気の影響で天気がくずれるでしょう。その他の日は高気圧に覆われておおむね晴れる見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(11月22日～11月28日)：

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

3～4週目(11月29日～12月12日)：

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

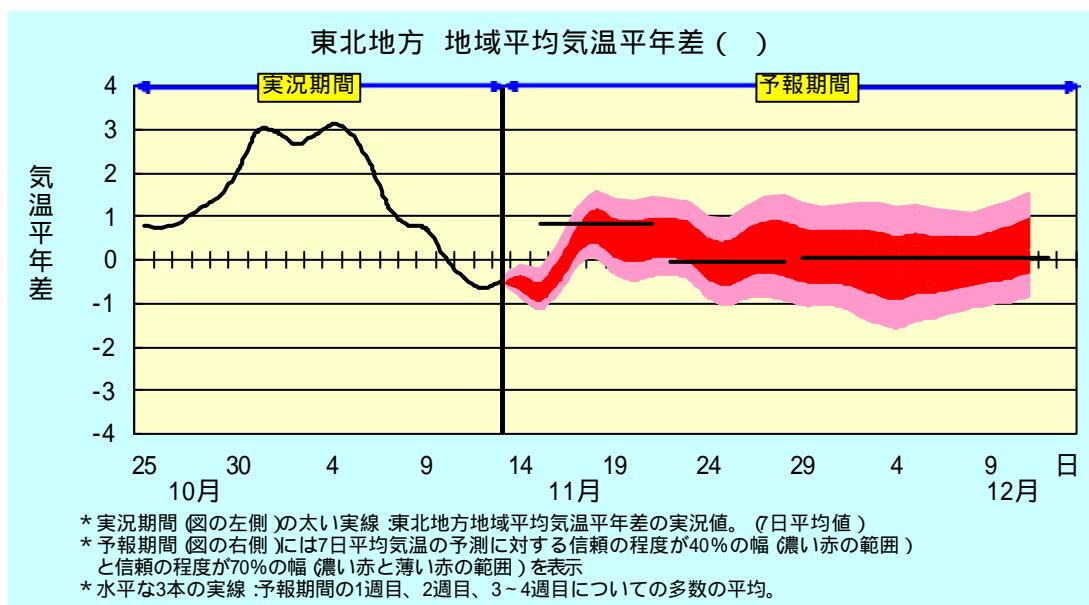
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	6.0日	1.8日	1.7日	2.5日
東北太平洋側	16.2日	3.9日	4.1日	8.2日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「高い」、2週目と3～4週目は「平年並」と予測している。予報は、週間予報資料から1週目を「平年並か高い」に変更する他は数値予報通りとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。

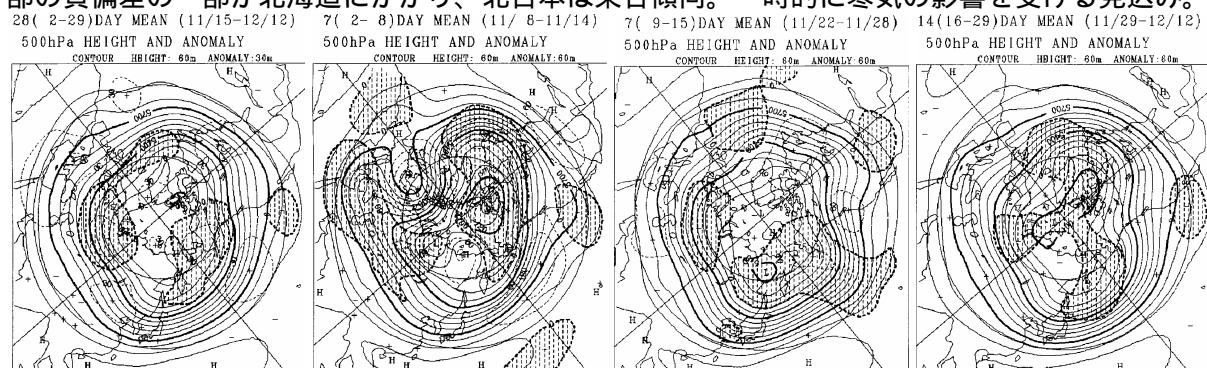


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、ベーリング海付近の負偏差がオホーツク海まで伸びるが、日本付近は大陸から連なる正偏差に覆われる。偏西風の流れは順調で、天気は数日の周期で変わる見込み。

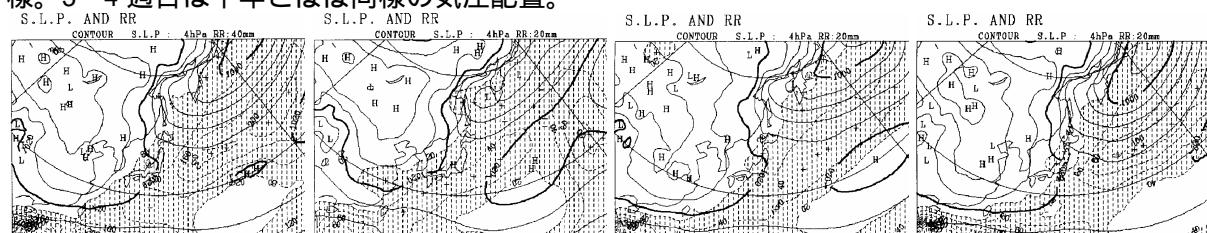
週別に見ると、1週目は、極東の中緯度帯は日本付近も含め正偏差。2週目は、極渦が東シベリアにあって日本の北が負偏差となるが、日本付近は弱い正偏差に覆われる。3~4週目は太平洋北部の負偏差の一部が北海道にかかり、北日本は東谷傾向。一時的に寒気の影響を受ける見込み。



地上気圧と降水量：

月平均では、大陸の高気圧の張り出しがやや強い。一方、日本の東海上で気圧の谷がやや明瞭だが、本州付近の等圧線の間隔はまばらで天気は数日の周期で変わり、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となる見込み。北日本の日本海側には、しぐれに対応するとみられる降水域が、また、本州南岸には前線や低気圧の影響による降水域が予想される。

週別に見ると、1週目は、本州南岸にまとまった降水域が予想される。2週目は月平均とほぼ同様。3~4週目は平年とほぼ同様の気圧配置。



4. 最近1週間（11月7日～11月13日）の天候の経過

この期間、7~8日は寒気の影響で東北北部を中心に雨となり、また、9~12日は本州南岸に停滞した前線や三陸沖を北東進した低気圧の影響で各地で雨となるなど、曇りや雨の日が多くなった。

なお、11日は青森で初霜と初氷、八戸で初霜、14日は八戸で初氷を観測した。

平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間はかなり少ない。

